

発行 豊中市教育委員会
1995年3月31日発行
編集 社会教育課文化財保護係
印刷 共同印刷株式会社



とよなか文化財ブックレットNo.4 通史編Ⅳ



行きかう人びと

— うつりゆく とよなか弥生人の世界 —

けんた うひゃー。ガイコツじゃないか、これ！
いきなり何だよ。

やよい きもちわるーいなんて言わないでよ。わたしたちの祖先なんだからね。

けんた えっ！じゃあ、これは古代人の・・・。

やよい そうよ。弥生人のお墓。

けんた へえー。

けんた これはね、勝部遺跡で見つかった弥生時代の中ごろ（今からおよそ二〇〇〇年前）のお墓なの。

けんた みんなは何してるんだらう？

けんた みんなは発掘調査を見学した人たち。この弥生人は男か女か、何ぞぐらいか、どうして死んだのかって考えているのよ。

けんた うーむ。

けんた この前、コメづくりのことを勉強したとき、弥生人はケンカしなかったのかなあって言ったでしょ。

けんた それと関係があるの？

けんた もちろん！

勝部ムラの探検

勝部遺跡（かつべいせき）

とよなかにはじめてできた、大きな弥生ムラ。弥生時代の中ごろを中心にさかえた。大阪空港の工事の時に発見されたんだ。たくさんのお墓が見つかり、市民もたくさん発掘に参加したんだよ。今、このお墓や骨はそのまゝの状態^{はしりい}で走井にある「勝部収蔵庫^{しゅうぞうこ}」に保管されている。

今回はこの勝部ムラを中心に弥生人がくらしした世界をのぞいてみよう！



※勝部収蔵庫を見学したい人は市役所の社会教育課に電話してね！

弥生人の



勝部遺跡の木棺（木のひつぎ）

これが木のひつぎ。完全な形で残っていたのはとてもめずらしい。コウヤマキというかたい木でつくられ、底板は10cmぐらいもある。内側の長さはおよそ150cmだった。さて、弥生人の身長はどのくらいかな？

勝部遺跡の四角いお墓（方形周溝墓）

およそ12m×7mの長方形。溝で囲まれている。弥生時代の中ごろの大きなお墓だ。まん中の四角い穴はひつぎを埋めるためのもので、ここでは合計3か所で見つっている。おそらく3人は家族や親せきであったにちがいない。このお墓も溝の内側には1mぐらいの高さの盛り土があったと思われる。



服部遺跡の丸いお墓（円形周溝墓）

直径およそ9mぐらいの溝で囲まれた丸いお墓。弥生時代の終わりごろのもの。手をつないでいる人たちは盛り土があった当時のお墓の姿を再現しているんだ。もともとは1~2mの高さの土が盛り上げられていたんだよ。

勝部遺跡の壺棺（土器のひつぎ）

高さおよそ60cmぐらいの壺。弥生時代のはじめごろのもの。子ども用のお墓。お父さんやお母さんは悲しかっただろうね。



お墓

けんた 弥生人のお墓からどうしてそんなことがわかるんだよ。

やよい ほら、下の写真を見て！ヤリが突き刺さっているのがわかる？勝部遺跡ではほかにも石のやじりが刺さったままの人が見つかったの。

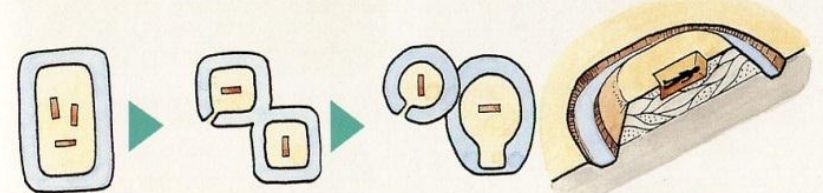
けんた じゃあ、やっぱりケンカしたんだね。コメづくり中心にムラができて、そのムラどうしでいろんな争いが起こったんだと思うわ。

けんた 田んぼをつくるには水が大切だっただろうし、取れたおコメもけんかのもと……。

やよい そう。よくできました。

けんた でも、大きなお墓だね。

やよい 誰にでもつくれたわけじゃないの。子どもは壺に入れて埋めたり、穴を掘っただけのお墓もあったのよ。へえー。



この頃のとよなかのお墓は溝で囲まれた、小さな丘のようなものだった。はじめは長方形のととても大きなもので、たくさんのひつぎが埋められたが、しだいに小さくなり、1人だけのためのお墓になっていった。ムラで富をたくわえ、力を持った人だけが大きなお墓をつくれるようになったと考えられている。

大きなお墓の移り変わりと内部のようす



勝部遺跡の人骨に突き刺さったヤリ

これは木のひつぎにおさめられた人骨のおなかのあたり。石をみがいてつくったヤリが突き刺さっている。おそらくムラどうしの戦いで命を失ったのだろう。



けんた ムラをまとるために戦った人たちって、いったい
 けんた どんな人たちなんだろう？
 やよい ふつうの人よ。ふだんはおコメをつくったり、狩
 やよい りをする人。いざという時だけ戦ったの。
 けんた ということは、今の軍隊じゃあないのか。
 やよい あたりまえじゃない。弥生人は私たちよりずっと
 けんた かしいのよ。生きるためにどうしても必要なケ
 けんた ンカしかないわ。
 うーん、さすがは、やよい博士。おっしゃるとお
 りでござりまするなあ。
 けんた 君は完全に弥生人に負けてるってわけ。
 けんた ぐへっ。どうしてそうなるの！

弥生人の戦士

弥生時代の中ごろ、ほかのムラの動きを見張るため、高い土地にムラができた。そして、弥生人は戦う時、木や皮、そしてかたい草であんだよろいを身につけていた。赤や黒の模様でかざられたよろいを着た人は戦いのリーダーだ。この絵は現在の阪急豊中駅付近から蛍池の方をながめたところ。

石を打ちかいてつくったヤリ
(北条町付近)

縄文時代にも似たものがあったが、これは狩りに使うものではない。このころから、石のやじりなどと同じように重く、大きくつくられている。弥生時代の日本にはそんなに大きなけものはいなかったので、きっと戦争のためにつかわれたんだろう。

長さ およそ14cm



銅の剣をまねてつくった剣 (新免遺跡)

弥生時代に中国大陸や朝鮮半島から青銅製の武器が伝わった。これは当時の日本ではとても貴重でつくることすらできなかった銅の剣をまねて、石でつくったもの。よくできているけど、やわらかい石できているので、本当に使ったのかどうかはわからない。たぶん、まつりの時などに使ったんだろう。

長さ およそ20cm



鹿の角でつくった道具 (勝部遺跡)

これ何だかわかる？弓の先の部分につけて、ツルをこの穴に通して止めるためのものだと言われている。表面には美しい水の流れたような模様が掘りこまれているぞ。



土でできた弾 (勝部遺跡)

ギリシャ神話の昔から現在まで、もっともべんりな武器がこれ。手にとって投げるだけ。しかも、あたるとさうとう痛い。粘土をこねてつくったり、河原石をひろったりして使ったようだ。



長さ
およそ5cm

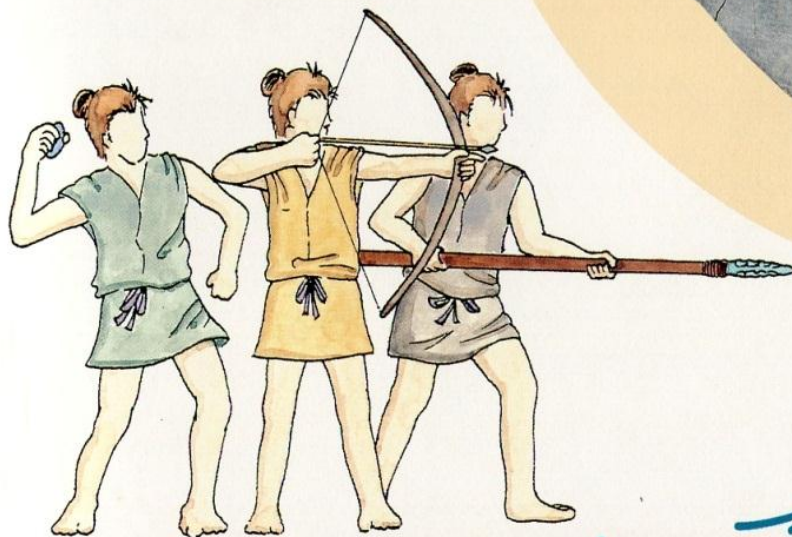
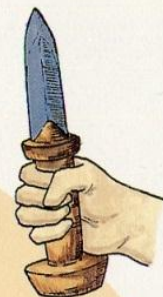
長さ およそ8cm



鉄の剣をまねた石の剣 (勝部遺跡)

かたい石をていねいに磨いてつくった剣。当時の人びとは鉄をつくることができた。より強力な武器をもとめて鉄の剣もつくられたが、これはその形を完全にまねたもの。刃の部分はとてもすどく、今でも手が切れそうだ。「剣」ではなく本当はヤリの先だったかもしれない。

長さ およそ15cm



た武器あれこれ

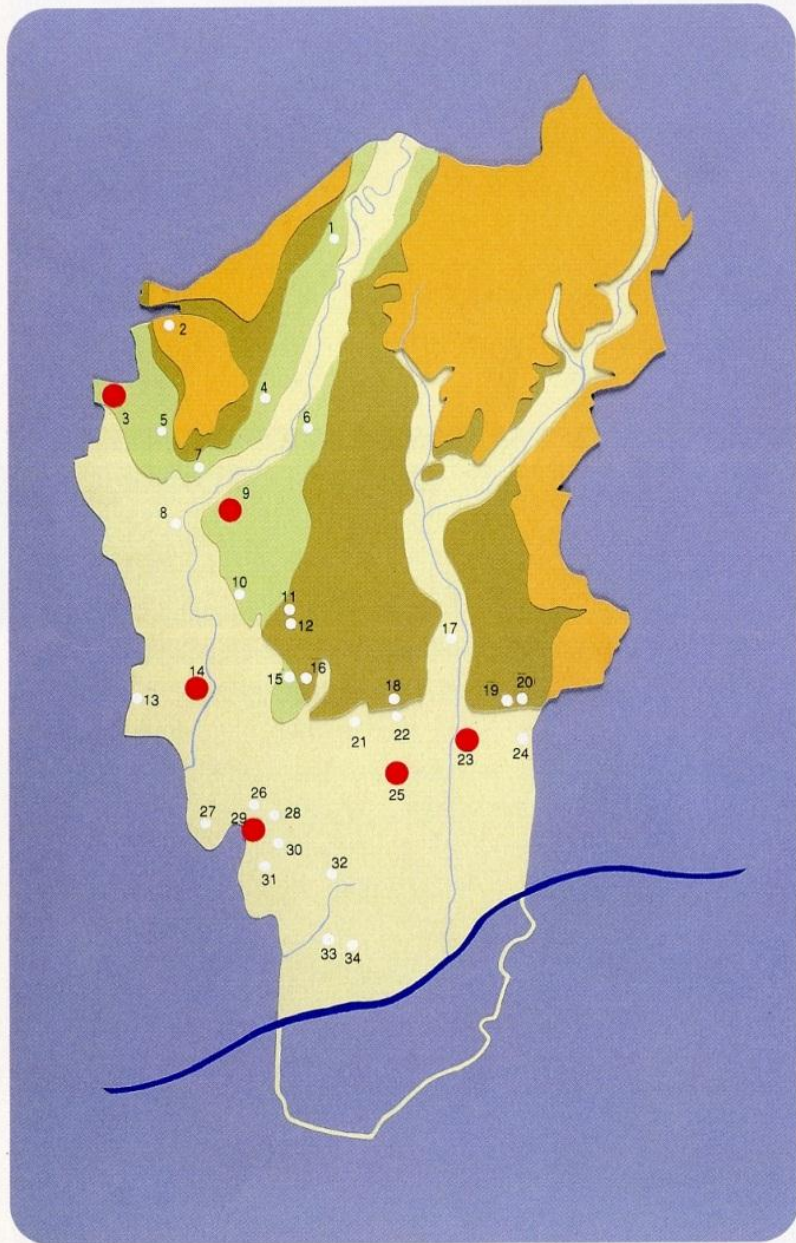
石のやじり (勝部遺跡)

縄文時代からずっと狩りの道具として使われてきた石のやじり。弥生時代の中ごろになると急に大きく、重くなる。人間どうしの戦争が始まったためだと考えられている。この後、もっと強力な鉄のやじりに変わっていき、石のやじりはつくられなくなってしまった。

最大の大きさ およそ5cm



弥生ムラのひろがり



やよい たくさんのムラができれば、争いもふえてくるし……。
けんた 洪水なんかがおこったら食べ物がなくなっちゃうぞ。
やよい だから、たくさんたくわえたムラが生き残っていくのね。

けんた ムラどうしの戦いって、とよなかではどの場所でおこったの？
やよい それはわからないわ。でも、大きなムラを中心に小さなムラができてグループになっていたのはたしかなの。
けんた すいぶん人口もふえたんだよね。うん。他の地方との交流もさかんだったのよ。
けんた へえー。どこからどんな人たちがとよなかへ来てたんだろう。なんだか、想像もできないなあ。



とよなかでは、弥生時代のいかに小さなムラへとわかままとめていく役割をはたし、新しい大きなムラができてきたと言われており、武器も弥生時代の終わりには、とよなかのほぼ全体に小さなムラがひろがったのが遺跡で見つかったムラがいつごろはじまって消えて、君たちにはどのムラがとよなかの中心となるよね？ちなみにもっとも色のうすいところは、とたしかめられていないんだ。また、弥生時代の終わりごろから古墳時代のはじめにかけて、人びとがさかんに移動した。次のページの土器は全国や海

外からとよなかへはこびこばれたものなんだよ！

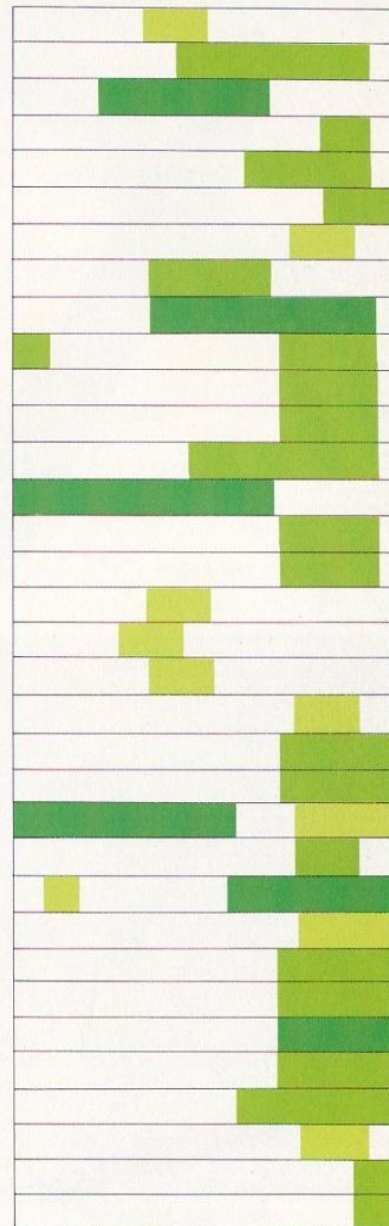
遺跡

- 1.野畑春日町
- 2.待兼山
- 3.蛭池北
- 4.柴原
- 5.蛭池西
- 6.本町
- 7.南刀根山
- 8.箕輪
- 9.新免
- 10.山ノ上
- 11.岡町北
- 12.岡町南
- 13.原田西
- 14.勝部
- 15.原田
- 16.曾根
- 17.長興寺
- 18.城山
- 19.若竹
- 20.寺内
- 21.豊島北
- 22.服部
- 23.小曾根
- 24.北条
- 25.穂積
- 26.利倉
- 27.利倉西
- 28.利倉南
- 29.上津島川床
- 30.上津島
- 31.上津島南
- 32.穂積ポンプ場
- 33.島田
- 34.庄内

前期

中期

後期

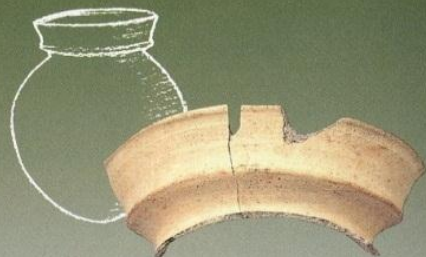


西の方からはこばれてきた土器



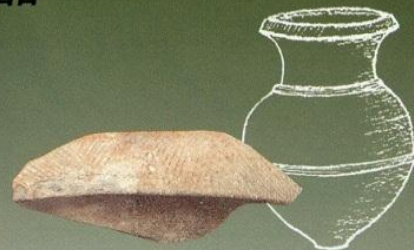
吉備系 甕・小曾根遺跡

なぜか岡山地方と大阪のあたりは親しかった。弥生時代でも終わりのころになるとさかんに交流していたようで、たくさんの土器などが見つかっている。



山陰系 甕・島田遺跡

日本海側から大阪へ来るには、大きな山脈をこえなきゃいけない。土器の中に重いものを入れてくるのは大変だったろうに。冬ならカニが良いのだが...



北部九州系 甕・島田遺跡

とんでもなく遠いところからも人はやって来た。船で来たのか、陸を歩いて来たのか。ともかくコメづくりとともに九州の文化も入ってきた。

大阪平野の土器



河内系 甕・利倉遺跡

大阪といっても当時は電車もないのでとても遠い。だからムラのくらしもずいぶんちがう。生駒山のふもとの土器はチョコレート色なのですぐわかるよ。



とよなかにはやってきた旅びと

奈良をへだててさらに大きな山脈をこえると伊勢湾をかこむ地方にたどりつく。近いようで遠いこの地方からも人はやって来た。コメづくりを伝えたお礼かな。

東海系 甕・島田遺跡



北陸って実は近いんだ。琵琶湖と淀川を船でむすぶルートは、最近まで重要な道として多くの海産物をもたらした。弥生人もきっと同じようにやって来たんだ。

北陸系 甕・豊島北遺跡



琵琶湖は昔、海だと思われていたにちがいない。その海にしかすまない豊富な魚や貝をとよなかにも運んだ。いったい何と交換したのかな。

近江系 甕・穂積遺跡



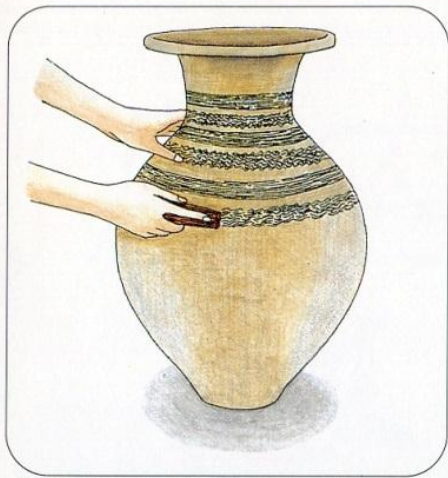
これは海をこえて朝鮮半島からやって来た土器の破片なんだよ。当時の日本と朝鮮半島の国々はさかんに交流していたが、とよなかにも来ていたんだね。

朝鮮半島系 無文土器・新免遺跡



東の方からはこばれてきた土器

海のもこうの土器



模様をつける

土器に模様をつけるには、先にきざみの入った木のクシや草のクキをたばねたものを押しつける。連続した美しい模様は土器を1周しているので、回転する台の上のせていたと考えられている。

波の模様

木のクシを上下に動かして描く



アミ目の模様

木のクシで斜めに直線を引いていく



すだれの模様

木のクシを止めたり進めたりして描く

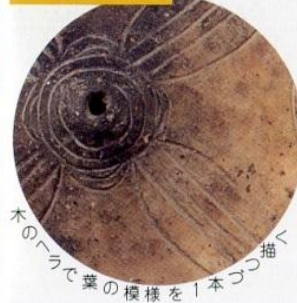


直線だけの模様

木のクシをまっすぐ止めず、斜めに引く



木の葉の模様



木の「下」で葉の模様を1本ずつ描く

朝鮮半島や九州の土器によく似ている。また縄文土器のおもかげも少し残っている。模様は1本の線で描かれたものが多いようだ。底が大きい。



はじめのころの土器
(およそ2400年前)

まさに弥生文化が花さいたって感じ。いろんな形や模様で土器がかざられるようになった。土器の底がちよっと小さくなったぞ。どうしてかな？



中ごろの土器
(およそ2000年前)

土器の形がシンプルになった。模様もほとんどつけられない。壺には動物の絵が描かれていたりする。土器の底はほんとに小さくなってしまった。どうなるんだろう。



終わりのころの土器
(およそ1800年前)

土器をたたく

弥生時代の終わりごろには、羽子板のようなものにきざみ目をつけ、それで粘土をたたきのばして土器の形をととのえた。



弥生土器のデザイン

ほんとかしら。約束よ！

せつかく、弥生人たちが教えてくれたことを役立てな
きゃ。ぼくも友だちとテレビゲームのとりあいでけんかす
るのをやめるよ。

今でも世界中で争いごとがおこっているのよ。弥生時代
から長い年月がたっても、ずっと同じことをくりかえし
てしまうのはなせかしら。

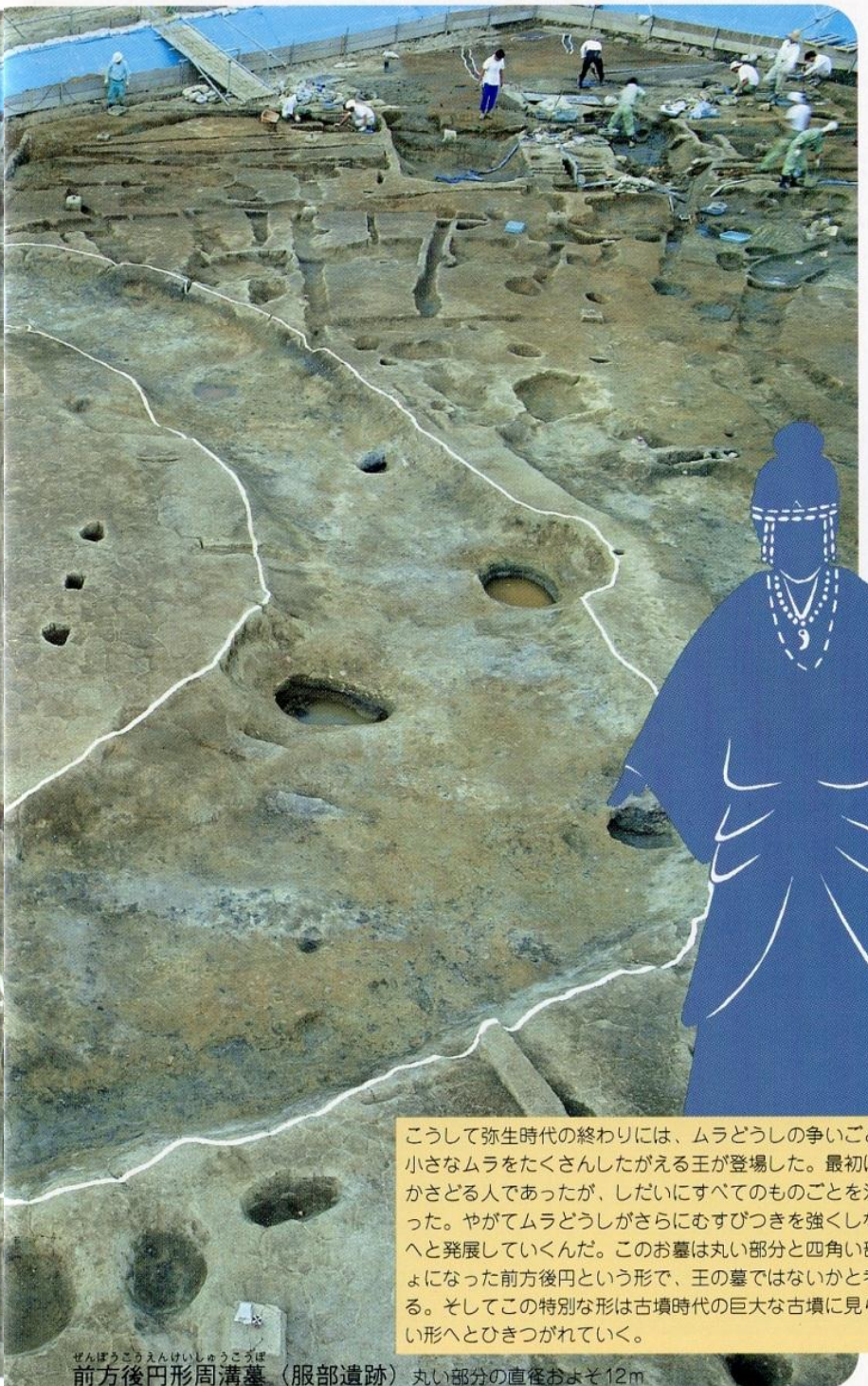
豊かな実りが争いのもとになって、なんだか変だ。みんな
でわけあってなかくくらせばいいのに。

武器だってすごいものになったし、ちょっとこわい感じ
がするわ。

戦争があつたなんて本当にびっくりしたよ。

そうね。コメづくりがはじまり、人口もふえて、ムラが
ひろがった。そしてムラを支配する人があらわれてき
て……。

弥生時代ってほんとにいろんなことがあつたんだね。



こうして弥生時代の終わりには、ムラどうしの争いごとをおさめ、
小さなムラをたくさんしがえる王が登場した。最初はまつりをつ
かさどる人であったが、しだいにすべてのものごとを決める人とな
った。やがてムラどうしがさらにむすびつきを強くしながら、クニ
へと発展していくんだ。このお墓は丸い部分と四角い部分がいっし
よになった前方後円という形で、王の墓ではないかと考えられてい
る。そしてこの特別な形は古墳時代の巨大な古墳に見られる、美し
い形へとひきつがれていく。

ぜんぽうこうえんけいしゅうこうぼ
前方後円形周溝墓（服部遺跡）丸い部分の直径およそ12m